

HEAT オフィシャル 総合ルール

第1条 試合

- 1 試合は、主催者指定の金網八角形リングを使用する
- 2 体重契約を設けている場合、対戦予定の双方と主催者で協議の上決定する
- 3 総合ルールの試合は4分の2ラウンド、インターバルは1分間とする。
- 4 延長戦はなしとする。
- 5 選手は必ずマウスピース、ファウルカップを着用する
- 6 試合は主催者が用意したオープンフィンガーグローブを着用しなければならない
- 7 ルールミーティングの際に着用する装備品を持参し、レフェリーのチェックを受けなければならない
- 8 バンテージ、テーピングの使用は選手の任意とするが、レフェリーのチェック及びサインを必要とする
- 9 選手は、身体の一部または全体にいかなる物質も塗布する事は認められない。
- 10 試合中、グラウンド状態での顔面への打撃を認める。

第2条 勝敗

- 1 ギブアップ マットか相手の身体を3回以上叩くか、口頭で意思表示をした場合
- 2 レフェリーストップ レフリーがこれ以上の試合続行は危険であると判断した場合
- 3 ドクターストップ リングドクターがこれ以上の試合続行を不可能と判断した場合
*負傷した選手のドクターチェックは、ニュートラルコーナーでレフリー立会いのもとで行われ、セコンドがこれに介入することはできない。
診断の対象ではない選手は、反対側のニュートラルコーナーで待機する。
- 4 試合放棄 セコンドがタオルをリング内に投入した場合
- 5 失格 1度目の反則に「注意」、2度目の反則に「警告」、それぞれにイエローカードが提示され、3度目の反則にはレッドカードの提示とともに「失格」とする
また、「注意」「警告」の段階でレフェリーが反則の回数に関わらず、レッドカードが提示の場合は即失格とする
- 6 判定 全ラウンド終了時点で勝敗が決定しない場合は、ジャッジ3名による判定に委ねられる。

第3条 判定基準

- 1 判定の優先順位
 1. 相手に与えたダメージ
 2. 積極性
 3. 印象

第4条 レフェリーの指揮

- ① レフェリーの指示、裁定は絶対なものであり、選手とセコンドは服従しなければならない

- 2 レフェリーが膠着状態であると判断した場合、ブレイクを命じ両者スタンド状態から試合を再開する
- 3 試合進行上、ルールに明記されていない不足の状態に際しても、レフリーの決定に従わなければならない

第5条 反則

- 1 反則行為（減点、失格の対象） 頭突き、顔面への肘打ち、金的攻撃、消極的姿勢及び有効的でない攻撃を続ける、肛門、口腔、鼻孔、眼球等の粘膜部に指を引っ掛けてコントロールする相手をリング外へ投げる（押し出す事も）、フェンスを掴む、フェンスに手足を引っかけるリング外へ逃げる、延髄・脊髄への打撃攻撃、自身または相手のグローブ・装備品・ショーツを掴んでの攻撃
- 2 どちらか一方でも、足の裏以外の部位が継続的にマットに接地している状態を「グラウンド状態」とし、この状態での顔面、頭部への蹴り、踏みつけ及び膝蹴りは認めない。グラウンド状態の選手の顔面への蹴り上げによる攻撃は認めない。
- 3 グラウンド状態ではいかなる場合も膝による攻撃は認めない

第6条 その他

- 1 選手は試合当日、グローブを着用する前に必ず検査員によるグローブチェックと、グローブを封印したテープにサインを受けなければならない。また、一度封印された後は、試合終了までグローブを外すことはできない
- 2 セCONDは2名までとし、試合中は自軍のコーナーから離れてはならない。また、試合中セCONDが選手に直接接触した場合、そのセCONDの退場を命ずるか、そのセCOND側の選手に反則としての罰則を与える
- 3 選手、セCONDがレフェリーの裁定に異議を申し立てる場合、試合終了後2週間以内に文章で提出すること。リング上を含め直接抗議することは禁止する
- 4 契約体重が設定されている選手は、試合前日、主催者指定の時間にレフェリー立会いのもと計量を行うが、それでもパスしなかった場合は罰則をかせられる
- 5 ドクターチェックは大会当日、試合前に必ず受けるものとする
- 6 本試合より45日以内に、あらゆる試合においてKO、もしくはTKOをされている場合は、本試合に出場できない